トピックス

トマト栽培施設内覧会

2月3日、農業生産法人あかい菜園㈱が建設した、トマト栽培施設の内覧会が、いわき市平赤井の施設で開催された。

施設は「超低コスト耐候性ハウス」の工法を市内で初めて採用した。

施設整備にあたっては、国の強い農業づくり交付金を活用し、ハウス1棟（10,432㎡）及び選果設備や養液装置等の附帯設備を整備した。

▲施設を見学する出席者

内覧会には、県・市及び農業関係者ら約30人が出席し、施設のしゅん工を祝った。

この後、船生代表取締役の案内で、施設内を見学した。

▲施設の概要説明（船生代表取締役）

後日伺うと、昨年の12月に作付したトマトが赤く色付いており、2月18日から出荷が始まっていた。

地区だより《北部地区》

（四倉・久之浜・大久）鯨岡 千春 委員

昔から未来へと続く『農の心』

――遠い昔、皐月の頃。

まだ幼い童子が、鼻取り(※)の仕方が下手だと、農夫に酷く叱られ、泥田の中を泣きながら牛を引いていたと。

通りかかった旅人が、不憫だと代わってくれ、それはそれは早くに代掻きが終わったと。

農夫は、何かお礼をしたいと思ったが、旅人の姿はすでに無く、泥の足跡が点々と続いていたと。

その足跡を辿っていくとお寺の階段へと続き、もっと辿ると、お地蔵様の足元で途切れていたんだと――。

これは、四倉町長友の長隆寺に安置されている、国指定重要文化財の木造地蔵菩薩立像、通称『鼻取り地蔵』の言い伝えです。鎌倉時代の、かの有名な快慶の作であり、貞享3年7月にこの寺に安置せられました。叱られている童子の身代わりとなったというのだから、子供思いの優しいお地蔵様だったのでしょう。

▲木造地蔵菩薩立像（通称　鼻取り地蔵）

▲四倉町長友の長隆寺

去る2月24日には、この長隆寺において祭典が行われ、地域住民を始めとするたくさんの参拝者が訪れました。住職による護摩祈祷が厳かに執り行われ、お札を受けた参拝者は一年間の安全を願います。甘酒が盛大に振舞われるこの祭典は、『甘酒祭り』とも呼ばれ、四倉地区では大きな行事の一つとなっています。

このように地域振興が盛んな北部地区ですが、今般百年の計のもと、大区画ほ場整備事業が推し進められており、将来を背負う若い担い手が育つ中、水稲直播・大豆・麦作農家、また20ヘクタールを越える大規模農家が現れるなど、農業振興にも明るい地域です。また、トマトを始め、いちごやイチジクについても、地産地消やブランド化に向けて探求するなど、新しい『農のカタチ』も出来つつあるようです。

これらをモデルとして、市内一円に地域活性化の取組みが浸透していくことを願っています。

※「鼻取り」…牛馬を使って田畑を耕すとき、牛馬の鼻を取って誘導すること。

編集後記

早いもので2回目の地区だよりの担当となります。この号が届くのが4月。春らしい記事をと考えていましたが、今はまだその兆しは見当たりません。春は一気に訪れるものなのだと、今さらながら感じています。

さて、米の戸別所得補償モデル対策がいよいよ実施されます。関心を持っている方は、いわきでは何人いるでしょうか。

農地の集積が進んできた今、認定農業者等担い手として進むべき道は何処なのか。まさに待った無しの手探り状態です。自分の経営をもう一度見つめ直して進むべきだと実感しております。

さあ4月、農機具の点検を万全にして、農作業事故に合わぬよう、くれぐれも注意して今年の豊作を勝ち取りましょう。

（執筆 鯨岡千春委員）

編集委員
三戸 進　渡邊 一雄
遠藤 靖　鯨岡 千春　草野城太郎